

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2021 年度事業報告ならびに決算報告

【 2021 年度事業報告 】

1. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む 148 団体に対して総額 868 万円のボランティア活動助成を行いました。助成団体に向けてのアンケート結果から 7 割以上の助成団体が活動内容を変更し、そのうち 6 割以上が進め方や手段を工夫、柔軟に対応しながら活動を継続していることがわかりました。また、活動の後押しとなる資金面での継続的な支援、とりわけ助成の対象となる経費の費目拡大を望む声が多く寄せられ、次年度に向け、助成内容の変更に着手しました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、21 社とコープこうべから寄付を得て、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、生活に困窮する人々を最前線で支援する団体を応援する「コロナ禍で影響を受けた人の支援事業」を追加し、17 団体に対し、総額 1,000 万円の助成を行いました。
3. 若い世代のボランティア人材の養成を目指して「高校生のボランティア顕彰」を実施し、3 回目となる今回は選考の結果、制約された学校生活の中でも今できることを前向きに考え、活動を行っていた 13 校を顕彰しました。

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 21 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	36	1,444,000	16.6
		障がい者	21	837,000	9.6
		地域住民	10	444,000	5.1
		在日外国人	1	60,000	0.7
		施設・病院	1	15,000	0.2
		その他	1	10,000	0.1
		合計	70	2,810,000	32.4
②	まちづくり		8	553,000	6.4
③	文化・芸術		3	41,000	0.5
④	地域安全		0	0	0
⑤	防災・減災		2	234,000	2.7
⑥	多文化共生		4	402,000	4.6
⑦	子ども育成		43	2,814,000	32.4
⑧	環境		17	1,691,000	19.5
⑨	その他(フードバンク)		1	131,000	1.5
合 計			148	8,676,000	100.0

(2) 「市民活動交流会」を東西2会場で開催

昨年度はやむを得ず開催中止としましたが活動を継続させるための手掛かりを他の団体から得たいとの強い思いに応えるべく、5月に市民活動交流会を東西2会場に分け開催し、希望した31団体が参加しました。交流会実行委員が中心となって企画し、コロナ禍でも工夫をしながら活動を継続している10団体からの事例発表を聞く講義形式で事例の共有化を図りました。

(3) 22年度助成に向け、要項・申請書を大きく変更することに着手

助成団体に向けてのアンケート結果から安心して活動を再開・継続するためには資金面での支援を強く望む声が多く寄せられたことをきっかけにボランティア活動助成の募集案内・募集要項の変更を運営委員会に諮りながら進めました。要望があるにも関わらず、これまで助成の対象外であった食材費・交通費・通信費などを対象とし、応募要件であった年10回以上の活動という条件を応募要件から外すこととしました。また、財団の助成の特徴である継続申請が可能であることを踏まえ、申請書を当年度の活動計画重視の様式に大きく変更しました。

2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

(1) 第5回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限100万/団体、助成総額1,000万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を賛同企業と力を合わせて応援しようと、2016年度に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2021年度からコープこうべが加わりました。この助成では、NPOなど法人格のある団体も応募可能とし、対象団体の幅をひろげています。

第5回目となる2021度は社会的課題を解決するために活動している団体やコロナウイルスの影響による困窮者を支援している団体を新たに対象としました。結果、34団体から応募があり（前年度は23団体が応募）、書類選考を通過した17団体が7月8日の賛同企業の代表と専門委員による最終選考会に進み、下記17団体に合計1,000万の助成を決定しました。

【地域の課題解決事業】(11団体)

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容および報告
NPO 法人 Brith 神戸 (17万円) 「夏だ！踊れ♪うたのカーニバル」無観客 YouTube 生配信ライブ	Youtube リアル配信を2日間行いました。約1800回視聴していただき、障がいを持つ人達の表現活動を広く知っていただく事が出来ました。この活動を通じて、障がい者が「生きる楽しさ」を積極的に社会に発信することが実現できました。

<p><u>NPO 法人あんずぼこ</u> (50 万円) 発達障がいのある不登校の子どもたちの自己肯定感を高める</p>	<p>発達障がいのある子どもや不登校の児童生徒への居場所の提供を行っています。コグトレという認知トレーニングのプリントや書籍での学習や調理、理科の実習などのイベントを開催しました。みんなで楽しい時間を共有したことにより、自己固定感が高くなった子もいました。</p>
<p><u>みんなのお茶の間 ゆりりや</u> (50 万円) 中高生たちが使える自習室をつくりたい！放課後自習室まなぼうや</p>	<p>中高生に毎週水曜日、無料で自習室を開放しています。途中、コロナ禍でもオンライン開催を含め活動を止めることなく、続けることができました。パンフレットを作成し、学校等に配布し活動を周知しました。また、地域の人から食材の寄付があり軽食を提供することができました。</p>
<p><u>特定非営利活動法人きょうどうのわ</u> (50 万円) 居場所と専門職のネットワークづくり事業～なんでも相談サロン～</p>	<p>東灘区の居場所団体を訪問し、困りごとに伴走、他団体の動きや工夫の情報を届けました。また、ネットワーク全体の交流会を2回実施し、活動継続の意欲などを引き出すことができました。毎年度末に発行している「歩いて居場所マップ」を作成し、配布しました。</p>
<p><u>特定非営利活動法人ガジュマルの船</u> (42 万円) 朝のスタートミーティングと金曜夜の感謝ミーティング</p>	<p>依存症当事者対象とした、ミーティングを毎週月曜～木曜の朝と金曜の夜に開催しました。誰かが話しているときは黙って聞き、意見や批判はしない、ここでの話は外部に持ち出さないなどのルールを作りました。そうすることで、自分の気持ちに正直な話ができることや安全で安心できる居場所づくりに繋がりました。</p>
<p><u>特定非営利活動法人ぷろじえくと plus</u> (50 万円) ユニバーサルツーリズム誘客促進事業</p>	<p>ユニバーサルツーリズムの対象をさらに拡大し、介助が必要な方でも自然体験ができるような環境整備を行い、自然豊かな但馬への観光客の誘客を図るため、体験会を行いました。10月たじま高原植物園で、ヒップキャンプをモニターの方に体験していただき楽しんでいただきました。その様子を Youtube にて動画配信しています。</p>
<p><u>NPO 法人あんだんて KOBE</u> (41 万円) 「キッズあんだんて」プロジェクト</p>	<p>知的や発達に遅れのある幼児、児童を対象としたグループ音楽活動「キッズあんだんて」を行いました。音楽を通して協調性を感じることができたり、積極的に活動に参加できるようになりました。活動の後半は子ども中心に感染が拡大したため、休止することも多くありました。</p>

<p><u>ひょうご多胎ネット</u></p> <p>(35 万円)</p> <p>オンライン多胎家庭支援プロジェクト</p>	<p>オンラインで「おしゃべりひろば」、「多胎ファミリー教室」を月 1 回開催しました。多胎児ならではの子育ての苦労や自治体や団体の取り組み状況などの情報共有などができ参考になったとお声をいただきました。想定したよりも参加者が少なかったため、今後は広報活動の強化に取り組めます。</p>
<p><u>BONBONCANDY にじいろじかん</u></p> <p>(22 万円)</p> <p>深刻な不安を抱えるマイノリティ・小児がん経験者の今とこれからの寄り添うまとめ記事作成「付き添い母の知恵袋」</p>	<p>小児がん経験者の家族と WEB 座談会を 6 回実施し、その内容を記事にまとめ HP で公開しました。参加者は当時の生活などを話し合う中で、傷が癒えたり、気持ちの整理ができ、今後の生活の中で必要なことなどが明確になりました。また、一方で当時のことを思い出すため参加しづらい方が多い傾向にあることを知りました。</p>
<p><u>富士見が丘コミレス</u></p> <p>(28 万円)</p> <p>ランチプロジェクト</p>	<p>富士見が丘に住んでいる高齢者を対象に毎週火曜と木曜に、「れんがの家」でランチを提供しています。高齢の一人暮らしの女性が多く、ランチの時、昔や今についておしゃべりすることで元気でいられると喜んでおられます。ランチは 600 円で、新鮮な食材を使用するようにしています。</p>
<p><u>特定非営利活動法人</u> <u>サポートステーション灘・つどいの家</u></p> <p>(45 万円)</p> <p>水曜つどいのひろば</p>	<p>塾でもない、カフェでもない、居場所として月に 2 回小中学生を対象に開催しています。大学生のボランティアと一緒に宿題をしたり、お絵かきなどをしたりして楽しく過ごしています。大学生は親しみやすく、話しやすいと子どもから大人気です。今後は滞りがちなブログを更新するなど、広報にも力を入れていきます。</p>

【コロナ禍で影響を受けた人の支援事業】(6 団体)

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容および報告
<p><u>特定非営利活動法人</u> <u>CODE 海外災害援助市民センター</u></p> <p>(88 万円)</p> <p>在留外国人とひとり親世帯一人ひとりを支え若者と学び合うコロナ支援プロジェクト</p>	<p>コロナ禍で困窮している在日外国人、子どものいる家庭への食料の提供と交流や大学生主体の食育イベントを開催しました。食育イベントでは、野菜をテーマにした動画を作成し、子どもたちに見てもらいました。コロナ感染拡大や大学生の予定が合わないなどで、当初の計画より活動回数が少なくなり、支援を必要としている方に十分なアプローチができませんでした。</p>
<p><u>へいなんこども食堂</u></p> <p>(100 万円)</p> <p>たすけあい弁当</p>	<p>へいなんこども食堂を利用している方々に、食事を作る「活動サポーター」として協力を依頼し、サポーターがいつもの料理にプラスαで作った「おかず」や「お弁当」を困窮する家庭にお届けしました。お弁当を受け取る方は、生活面や経済面で困難を抱えている方が多く、配達時にゆっくりと個人的な話を聞くことで信頼関係を築きました。</p>
<p><u>特定非営利活動法人ケアット</u></p> <p>(100 万円)</p> <p>ACT LOCAL KOBE 「私たちの町に住む外国籍の人々の生活をささえる事業」</p>	<p>コロナ禍で影響を受けている一人親等の困窮家庭と、食べることにさえ困っている外国籍の方の暮らしを支えるために、手作り弁当とフードパントリーを毎週金曜日に開催しています。参加者は毎週増加し、特にニーズが高いのはすぐに食べられるお弁当です。外国籍の方は、宗教の関係やオーガニックにこだわる方などがおり、食材提供が困難な場面もありました。</p>
<p><u>特定非営利活動法人いねいぶる</u></p> <p>(86 万円)</p> <p>コロナ禍における経済的な困窮者および高齢者のデジタルデバイドと社会的孤立を防ぐオンラインプラットフォームの創出</p>	<p>たつの市下沖自治会をモデルとして、サロンのオンライン化、希望者への zoom の使用支援、ハイブリット型による新たな多世代の対話と社交の場づくりができました。また、高齢の近隣住民たちが、各々ハンディカムを持ち、撮影・交流を数珠繋ぎしながら地区内を歩き、その後、協力して動画の編集制作を行いました。この「じじつなぎ」作品をコンテストに出品し、健康応援賞を受賞しました。</p>
<p><u>ミャンマー関西</u></p> <p>(98 万円)</p> <p>ひょうご在住ミャンマー人留学生等支援事業</p>	<p>在日ミャンマー人への生活支援活動として、衛生対策品の配布提供、冬服等の衣類などの配布提供を行いました。食料品の配布提供は、密を避けるため各種イベント開催時に提供しました。また、フットサル大</p>

	会出場やカレン祭り開催などの支援もおこないません。多岐に渡る支援活動の結果、在日ミャンマー人や関心を持っていただいた人たちの期待に応えることができました。
<u>認定 NPO 法人女性とこどもの支援センター ウイメンズネット・こうべ</u> (100 万円) 女性や子どもたちの孤立・孤独を解消する”ココ”プロジェクト	孤立しがちなシングルマザーや子どもたちが、コロナの影響でますます不安や孤立感が増し、心身の不調をきたしたり、話し相手が減ることを受け、女性向けに気軽に集えるココ*サロンを月に2回定期的に開催しました。参加人数を広げようと考えましたが、参加者から少人数の方が話しやすいとの声があり、またコロナ禍でもあったため少人数で参加者が充実できるような場づくりに切り替えました。

(2) 助成団体を訪問し賛同企業へ報告

財団スタッフが 11 団体を訪問し、プロジェクトに込めた想いや進捗状況をヒアリングし、訪問記にまとめて賛同企業に伝えました。今後も賛同企業には助成団体の活動状況などを丁寧にお知らせし、継続的な支援を呼びかけます。

3. ひと育て、学びや交流の場の充実

(1) 第3回「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の柱の一つである、若者のボランティア人材の育成のための取り組みとして、「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施しました。高校生がボランティア活動を通して、心豊かに成長し、次代の担い手となることを目的としています。

3回目となる2021年度も兵庫県教育委員会と兵庫県私立中学高等学校連合会のご後援を得、神戸市校長会でのご案内や各高校へダイレクトメールを出すなどの広報活動を行った結果、県内16校から申請がありました。選考会を経て、13校の顕彰を決定し、顕彰状と副賞として3万円を贈りました。また、顕彰を受けた高校生の活動報告・交流会が前年はコロナウイルスの影響でオンラインでの開催となりましたが、2021年度は3月31日に対面とオンライン(Zoom)の両方で開催し、10校が参加しました。交流会には地域のボランティア団体、コープこうべ職員などあわせて約70名の参加があり、各校の発表やそれについての感想・質問が活発に交わされました。

(2) インターンシップ受入れ

関西国際大学国際コミュニケーション学部3回生3名(留学生2名を含む)を財団初のインターンシップとして約1週間受け入れました。スタッフと共に助成団体を訪問し、活動に参加する中で学生達が視野を広げるための一助になったと同時に若い世代の視点や意見がスタッフに良い刺激となりました。

(3) 灘区社会福祉協議会、コープこうべと合同で交流会を実施

11月25日、灘区社協とコープこうべ第3地区本部の登録ボランティアグループ、ともしび財団の助成団体、計22団体の交流会が開催されました。これは、同じ地域で活動するボランティア団体同士が知り合い、連携するきっかけになればと合同で企画したものです。当日は、お互いの活動内容や目指すものについて語り合い、名刺やアドレス交換をする人や、今後の活動の連携について早くも約束ができるなど、有意義な時間になりました。これに続く1月のボランティアフェスティバルは開催中止となりましたがひき続き、助成団体の交流の場づくりを行います。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに拡げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

コロナ禍で集まることや訪問が見送りになる中で年4回発行のともしび通信を最大限に活用し、団体の情報や財団の動きなど丁寧に広報しました。

(2) コープこうべと連携した広報

コープこうべの組合員向け機関紙きょうどう10月号(発行部数約50万部)で財団の様々な取組みが2ページに渡り紹介されました。とりわけ回収ボックス設置場所の問合せが寄せられるなど古本募金きしゃぼんへの関心が高まった結果、翌月のきしゃぼんへの寄付額が平年の同時期の1.5倍(2019年度比較)となりました。

(3) 助成団体とともに財団のボランティア活動の動画を作成

財団が助成する団体とともにボランティア活動助成の内容を紹介する動画を作成しました。助成の説明会や生活文化センター西館のロビーなどで多くの方に視聴していただき、実際の活動や団体の代表が財団について語る場面に共感が高まりました。

2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

(1) レインボースクール

店舗で開催される学習会「レインボースクール」において昨年にひき続き財団のスタッフが講師となり「片づけが寄付になる!?知ってすっきり片づけのコツ」をテーマに2会場で開催し、延べ20人の参加がありました。身近な片づけをきっかけにして、きしゃぼんへの寄付への呼びかけるとともに財団への理解を深める機会となりました。

(2) コープこうべ地区開催のスマートフォンの講座・相談会を支援

コープこうべ第2・3地区本部が組合員向けに開催する、学生が教えるZoom講座・スマホ相談会に助成しました。内容をブラッシュアップさせ、オンライン会議を主催する側になるためのセミナーにも発展しました。今後もひき続き、状況に応じて必要とされる地区開催の講座・研修を支援していきます

Ⅲ. 財団の基盤の安定をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

1. 資金調達の強化

(1) 2021年度賛助会費・寄付・募金について

(単位:円)

		2019年度実績	2020年度実績	2021年度目標	2021年度実績
賛助会費	個人	678,000	672,000	600,000	644,000
	法人	1,280,000	1,280,000	1,300,000	1,320,000
賛助会費合計		1,958,000	1,952,000	1,900,000	1,964,000
寄付	個人	1,373,410	787,274	750,000	716,870
	お香典にかえて	342,000	540,000	500,000	350,000
	法人 ※	2,300,000	2,500,000	2,400,000	2,300,000
	まいくる	977,800	1,013,568	1,050,000	1,042,273
	つり銭チャリティー	706,398	447,690	400,000	503,160
寄付合計		5,699,608	5,288,532	5,100,000	4,912,303
募金	集中募金	5,330,089	4,488,313	5,000,000	7,584,251
	めーむポイント	2,866,900	2,824,075	2,800,000	3,786,300
	イベント募金	19,737	0	5,000	0
	きしゃぼん	875,191	1,319,985	990,000	778,979
	切手・はがき		387,531	200,000	131,619
	その他	12,880	3,840	5,000	54,836
募金合計		9,104,797	9,023,744	9,000,000	12,335,985
総合計		16,762,405	16,264,276	16,000,000	19,212,288

※法人寄付 2,300,000 円は「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」です

賛助会費は目標金額に達しましたが、香典返しに替えての寄付など個人からの寄付が昨年度より減りました。募金金額についてはコープこうべが組合員向けに行う集中募金が、年2回あり、めーむポイントと併せて目標を大きく上回りました。

(2) 古本募金「きしゃぼん」や書き損じハガキ回収などの取り組み

2016年の7月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は2021年度は約78万円の募金となりました。コープの店舗を中心として回収ボックスを30カ所に設置しています。また、コープ委員、コープ職員を対象に書き損じハガキや未使用切手の回収を呼びかけ、約13万円の募金金額となりました。

(3) 夕食サポート事業からの寄付

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しており、今年度は1,042,273円(前年比102.8%)になりました。

(4) 基本財産運用

2022年3月に外債シルフリミテッドシリーズ1219(年利2%)1億円が満期償還され、いったん預け金としていますが各証券会社様から情報収集の上、買い替えを検討して参ります。

2021年度運用状況は、資料1-1のとおりです。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフのスキルアップ

兵庫県内で活動する助成財団同士の交流会に参加しました。(公財)木口財団、(公財)やまぶき財団、(公財)ひょうごコミュニティ財団、(一財)大吉財団、(認定)しみん基金・KOBEOの職員が参加しています。この交流会は、財団を取り巻く環境の変化について共有化することや、各財団の課題や取り組みについて情報交換することを目的としています。2021年度は、オンラインでの助成申請を導入された、やまぶき財団にて対面で開催され、当財団からもスタッフ全員で参加し、仕組みや状況について共有化を図りました。

また、オンラインで開催されたファンドレイジングセミナーにも参加し、コロナ禍をきっかけとした寄付意識の変容や寄付者・支援者管理の重要性を学びました。